

本や教科書のリユース

報告者 三橋 一聖
石垣 義弘

目次

1. 問題意識
2. リユースに関する意識調査
3. 調査から見えてきたこと
4. 解決策(提案)
5. まとめ
6. 参考文献

問題意識・研究目的

- ・コロナウイルスの感染拡大による巣ごもり需要の増大が見られ、それに伴いゴミが増え社会問題になっている。一方、その中でも3R（リサイクル）についての人々の認識や意識に大きな変化が見られず低い状況が続いていると思われる。
- ・しかし、リユースは、持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）を達成するために非常に重要である。例えば、住宅分野では、住み続けられるまちづくりを、つくる責任つかう責任などが議論されており、従来のような古い考え方では時代の趨勢に逆行することになる。
- ・そこで、本研究では大学生にとって身近な存在である本や教材に焦点を当てて、リユースの可能性を探り、資源の有効活用のヒントとなる知見を得たい。

内容

- ・まず、大学生を対象としたリユースに関する意識調査を行った。次に、調査で見えて課題を整理した。例えば、不要になった本や教科書を捨てる人が回答者の半数を占め、廃棄理由は置き場がないと答えた人が全体の50%以上もあることが判明した。
- ・本や教科書といった紙類は、一般的に資源ごみとして出すことが多く、その後は新たな資源へと変わるが、しかし新たな資源を生み出すために、多くのエネルギー資源やお金、手間がかかることも歴然とした事実である。
- ・そこで、検証分析の結果を踏まえて導き出した解決策は、中古品を買ってリユースに参加するということや、フリマアプリを利用して売り・買いを行い、大学内で本や教材の有効活用ができる、誰でも気楽に利用できるアプリを作成することが有効であると考えられる。

結論

- ・身近にある使い古した物を日ごろから再利用するという心を心がけていくことが大切であると考えられる。
- ・使わなくなったモノはなんでも捨てるのではなく、まずなにか再利用できないかを考えることが重要であり、それによって持続可能な開発目標の達成、そして社会貢献につながるであろう。